

JA全農杯2023全国小学生選抜サッカー大会IN東北

2023年3月4、5日／相馬光陽サッカー場（福島県）

3月4、5日、相馬光陽サッカー場でJA全農杯2023全国小学生選抜サッカー大会IN東北が行われた。5月3、5日に神奈川県横浜市で開催される決勝大会（全国大会）に進めるのは上位2チーム。宮城からはマリソル松島ジュニアとベガルタ仙台ジュニアが出場し、2チーム共に予選リーグを突破した。

マリソル松島ジュニアは準々決勝でモンテディオ山形ジュニア村山に2-5で敗れ、ベスト8に終わった。青木崇監督は「レベルの高い大会に参加でき、現在地を知ることができました。どうやって都市部のチームに対抗するかチャレンジしましたが、いい経験ができました」と果敢に戦った選手たちをたたえた。

ベガルタ仙台ジュニアは今年も決勝に進出し、4大会連続で全国大会出場を決めた。決勝は青森FC U-12と対戦。第1ピリオドに庄司瑞人のゴールで先制した。第2ピリオドで同点とされた後、浅井桐哉が得点し突き放したが、終了間際に追い付かれる。第3ピリオドはオウンゴールで失点したものの、浅利隼生が追加点を挙げ3-3。延長戦でも決着がつかず、PK戦に2-3で敗れた。準優勝という結果に終わり、永井篤志監督は「悔しさを持っていく先は全国大会」と語り、全国の舞台での躍進を目指す。

ベガルタ仙台ジュニアは今年も決勝に進出し、4大会連続で全国大会出場を決めた。決勝は青森FC U-12と対戦。第1ピリオドに庄司瑞人のゴールで先制した。第2ピリオドで同点とされた後、浅井桐哉が得点し突き放したが、終了間際に追い付かれる。第3ピリオドはオウンゴールで失点したものの、浅利隼生が追加点を挙げ3-3。延長戦でも決着がつかず、PK戦に2-3で敗れた。準優勝という結果に終わり、永井篤志監督は「悔しさを持っていく先は全国大会」と語り、全国の舞台での躍進を目指す。



準優勝で4大会連続の全国大会出場を決めたベガルタ仙台ジュニア



マリソル松島ジュニアはベスト8入りを果たした



第3ピリオドで同点ゴールを決めたベガルタ仙台ジュニアの浅利

KENDO

第39回宮城県少年剣道新人大会

2023年3月5日／塩釜ガス体育館

主催は県剣道道場連盟、河北新報社。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、2020年から3年間開催がかなわず、4年ぶりの実施となった。小学生団体の部、中学生団体の部、小学生個人の部男女の4部門で、それぞれトーナメントで優勝を争った。

小学生団体の部には51チームが参加。決勝ではあらた道場A（仙台市）と岩沼西少年剣道錬成会A（岩沼市）が顔を合わせ、2-1であらた道場が勝利。五十嵐晟羽主将は「しっかり声が出ていて、自分を含め3人とも気持ちが入った。中学生団体の部は67チームが参加。決勝は岩沼西少年剣道錬成会Aが古城剣修館A（仙台市）に対し、1本の本数が一つ上回り戴冠。丹野蒼斗主将は「相手も強かったが、自分たちは仲間を信じ、団結したことで勝利できた。目標の優勝を実現できてうれしい」とさわやかな笑顔を見せた。

中学生団体の部は67チームが参加。決勝は岩沼西少年剣道錬成会Aが古城剣修館A（仙台市）に対し、1本の本数が一つ上回り戴冠。丹野蒼斗主将は「相手も強かったが、自分たちは仲間を信じ、団結したことで勝利できた。目標の優勝を実現できてうれしい」とさわやかな笑顔を見せた。

小学生個人の部は、37人が参加した男子を横澤樹季（岩沼西少年剣道錬成会）が、30人が参加した女子を千葉沙月（六郷剣道クラブ）が制した。

中学生団体の部



優勝の岩沼西少年剣道錬成会A



準優勝の古城剣修館A



決勝は岩沼西Aの中堅、折笠琳音（右）が鋭い出足を見せる

小学生団体の部



優勝のあらた道場A



準優勝の岩沼西少年剣道錬成会A



決勝であらた道場Aの先鋒、菅原儀（右）が積極的に攻め込む